

データサイエンスとしての日本書紀紀年問題 ～神武天皇，崇神天皇，応神天皇，神功皇后の解読～

高見 友幸

大阪電気通信大学 総合情報学部

takami@osakac.ac.jp

キーワード 日本書紀の紀年，崩年干支，神武天皇，崇神天皇，応神天皇，神功皇后

1 はじめに

日本書紀の紀年問題は日本古代史の最重要研究テーマのひとつであるものの，今もなお未解決問題として残されたままである。

ところで，我々の最近の研究からは，その紀年問題に対して非常に整然とした結論を得ることができたので，本研究会にて速報する。本年6月開催の日本国史学会第1回学術大会 [1] では，4世紀以前についての紀年復原を発表しているが，本発表では，5世紀を含めた紀年について発表する。

本研究の紀年復原で用いた手法は，基本的には，1953年に提起された笠井倭人氏の仮説 [2] (以下，笠井説と呼ぶ) に沿ったものである。なお，本復原では，笠井説の考え方と合わせて，2019年に提起された伊藤雅文氏の創案 [3] (以下，伊藤説と呼ぶ) も大きな手がかりになっている。本稿の仮説 (以下，原日本書紀仮説と呼ぶ) は，後述するとおり，笠井説，伊藤説の延長線上に，新たな仮定4件を加えて提起されたものである。

なお，本研究は，古代日本の大型将棋史の研究 [4] および古代大王家の系譜に関する研究 [5] から派生したものであり，非常に広範な研究課題と連携することがわかりつつある。

2 紀年復原の方法

日本書紀は，編纂当初，編年体の史書として存在していたであろうというのが笠井説と伊藤説の基本的な前提である。本稿で提起する原日本書紀仮説もこれらの先行2仮説の前提を引き継いでいる。つまり，日本書紀に見られる無事績年¹⁾は，紀年延長の操作がなされたときに，挿入されたものであり，編纂当初にはなかったとするのである。編纂当初ではすべての年次に何らかの事績が記されていた史書 (以下，原日本書紀と呼ぶ) が存在した

とする。

さて，日本書紀から「原日本書紀」を作成する方法は，無事績年を削除し，事績のある年を詰めて並べるだけの操作である。主観や解釈が入る余地がないため，得られる結果は一意的である。神武天皇即位から顕宗天皇即位までの「原日本書紀」の年表を，本稿の最後に添付した。安康天皇紀の紀年については，客観的操作だけでは決定できないため，年表から取り除かれている。

なお，本稿の紀年復原の方法は，次の点で，笠井説あるいは伊藤説の方法と異なる。

1. 基本的には，無事績年を詰めるという作業だけで，原日本書紀を復原できるが，この作業は，仁徳紀以前についてのみ行う。履中紀以降の無事績年は削除しない。
2. 神武天皇および欠史八代の紀年を無視することはせず，紀年の始めを神武天皇からとして紀年復原を行う。
3. 二王朝並立を仮定する。4世紀までに限れば，崇神紀と垂仁紀，垂仁紀と景行紀，仲哀紀と神功紀，履中紀・反正紀・雄略紀と允恭紀，において，二王朝並立が実現したと考えている。
4. 神功紀から三国史記関連の事績を5年にわたり削除する (神功55年，56年，62年，64年，65年の記事がこれに該当する)。つまり，日本書紀が作られた段階で，これらの事績が追加されたものとみなす。原日本書紀の段階では，これらの5年の事績は記載されていないものと見る。

上記1については，結果的には，伊藤説とほぼ同様となるが，伊藤説では当初の無事績年をそのまま残すという考え方を取っていない²⁾。

上記2については，笠井説，伊藤説とも紀年復原の対象外である。しかし，実は，原日本書紀のこの部分の紀

年が、編纂者の設計方針を明確に示しており非常に重要である。

上記3については、伊藤説では、継体紀と仁賢紀・武烈紀が並立するという考え方を取っているものの、それ以外の期間では、王朝の並立は想定されていない。なお、本研究においても、継体紀と仁賢紀・武烈紀が並立すると見ている（ただし、掲載の年表では範囲外）。

上記4は若干の主観的要素を含むが、さほど不自然な前提ではないであろう。伊藤説においても、同様の除外がなされているが、対象となる事績が異なっている。

原日本書紀の年表を作るためには、無事績年を削除した後、紀年を並べていく起点となるべき年（以下、定点と呼ぶ）を決める必要がある。本稿では、原日本書紀の定点を301年の崇神天皇即位年に設定した³⁾。これにより、原日本書紀の紀年全体の整合性を取ることができるため、この仮定は正当と考える。伊藤説でも、本稿と同様、301年の崇神天皇即位年を前提に、紀年復原がなされているが、継体紀までの王朝並立が想定されていないため、本稿の復原とは異なる結果となっている。

原日本書紀の年表からもわかるとおり、二王朝並立を想定すると、古事記の崩年干支と原日本書紀から導かれる崩御年がほぼ一致する。

3 紀年の検証および考察

3.1 立太子年

「崩御年＝立太子年の翌年」および「即位年＝立太子年の翌々年」という紀年設計の基本シナリオが組み込まれていることがわかる。得られた結果（後述）の整合性はほぼ完璧に近いため、立太子年に関連する紀年と年齢の数値は、日本書紀の編纂者がきちんと意図した設計値であると見ることができよう。

また、立太子の翌年に崩御する皇后にも注目すべきである。播磨稲日大郎姫、磐之媛命は立太子年の翌年の崩御であり、天皇相当とみなされているかも知れない。また、変則的ではあるが、衣通郎姫（古事記）、飯豊青皇女も該当するであろうか。神功皇后（とされた別の女王）がそうであるように、上記4人は女王であった可能性を検討すべきであろう。

3.2 二王朝の並立

並立期間中には、二王朝のそれぞれの事績が王朝ごとに記載されることになる。紀年延長操作に応じて、当然、原日本書紀と日本書紀の事績の内容は大きく変更されて

いると予想される。しかし、実際はそうではなく、多くの場合で類似点を見つけることができるのである。どうしてなのだろう。前述した立太子年と同様、日本書紀に施された設計意図を見ることができよう。

以下に、いくつかの紀年での類似をキーワードとともに示した。カッコ内がキーワードである。詳細については、日本書紀の原文を参照されたい。以下の6例とも二王朝並立の期間にあり、原日本書紀の年表では同じ紀年であることに注意されたい。

- 崇神 10 年（迹迹日百襲姫命の予知）
● 垂仁 25 年（倭姫命を依代）
- 崇神 62 年（池）
● 垂仁 35 年（池）
- 垂仁 99 年（纏向宮）
● 景行 4 年（纏向に都）
- 垂仁 99 年の翌年（八竿八纒）
● 景行 12 年（八握剣・八咫鏡・八尺瓊）
- 仲哀元年（白鳥を焼けば）
● 神功 5 年（檻に火を放って）
- 仲哀 2 年（角鹿に筥飯宮）
● 神功 13 年（角鹿の筥飯大神）

以上の例は、類似する事績を同一年に配置することで、二王朝の並立を暗示したかったのではないか。

3.3 天皇の誕生年

立太子年およびそのときの皇太子の年齢から天皇が誕生した年を推察することができる。

原日本書紀から、以下 10 例の誕生年を列挙する。原日本書紀によれば、たとえば、開化天皇と誉津別命が同じ誕生年であったり、天日槍が現れた年に応神天皇が誕生する。こうした紀年からは、非常に多彩な古代史シナリオが展開されそうではないか。この他にも、特筆すべき紀年は多数あるが、詳細は今後の論文に譲る。

201 年：神武天皇・崇神天皇・応神天皇 誕生

201 年（日本書紀）：神功皇后 即位

239 年：孝元天皇 誕生

249 年：綏靖天皇・崇神天皇 誕生

279 年：開化天皇・誉津別命 誕生

301 年：成務天皇 誕生

303 年：天日槍 現る、応神天皇 誕生

323 年：仲哀天皇 誕生

343 年：仁徳天皇 誕生

363年：履中天皇 誕生

428年：雄略天皇 誕生

たとえば、上記のとおり201年には、4人の事績が並ぶ。漢風諡号に「神」が入る天皇・皇后はこの4人だけであることに注意されたい。それが史実かどうかはともかく、日本書紀が数値的に設計されていることの現れである。同時に「原日本書紀仮説」が正しいことの立証にもなる。

上記では、応神天皇の誕生を201年と303年の2例挙げているが、これは、計算の基準とする年を、立太子年、即位年、崩御年のうちのどれを選ぶかによって結果が異なるからである。また、日本書紀と古事記、どちらの宝算を参照するかによっても異なる。

4 おわりに

本研究の紀年復原の作業は、Excelによる紀年の並べ替えと削除のくり返しで結論が得られている。笠井説では、原日本書紀の存在とともに、古事記の崩年干支も信じていたという点で、基本的には本研究と同じ立場である。1953年にもExcelが使えたとしたら、笠井倭人氏が原日本書紀の紀年復原を実現されていたかも知れない。

原日本書紀の紀年は、古事記の崩年干支と非常によい一致を示す。また、誕生年と崩御年の間には系統的な関係性が顕著であることから、原日本書紀と古事記の数値は仕組まれた意図の上なのかも知れない。たとえば、201年の崇神天皇誕生は古事記の宝算168歳から導かれており、この168という数値が201年に3天皇の誕生年を集中させたということなのである。

本稿では取り上げなかったが、原日本書紀の紀年からは、従来の古代史研究では言及されなかった新しい事績がいくつも現れる。それらの数例を列挙して、本稿をひとまず終える。

- 369年：七支刀伝来

通説では、神功52年(252年)の事績を干支2運(120年)だけシフトさせた372年のこととされるが、原日本書紀では、そのような操作を経ず、七支刀の銘文どおり369年となる。

- 397年：菟道稚郎子の即位

454年：木梨輕皇子の即位

立太子の年の翌年に天皇または皇后／女王が崩御し、その翌年(空位年は無視)に次の天皇が即位するというルールに基づく。「皇太子は必ず天皇になる」というルールも一考の余地ありと考える。語句

による情報の埋め込みもあり得るであろう。

- 412年：仁徳天皇の即位

履中天皇の立太子が410年と記されており、この翌々年の412年に新しい天皇の即位があったことになろう。日本書紀では仁徳朝の途中(仁徳37年)であるが、原日本書紀では、ここからが仁徳朝の開始と見る。前年の411年に磐之媛の崩御が記されることにも注意されたい。また、この紀年は倭の五王の問題とも関連が深い。

- 503年：飯豊青皇女の即位

仁賢天皇の立太子は501年であり、この翌々年に新しい即位がなるべきところ、次の顕宗天皇即位は504年である。ルールに則り、503年に飯豊青皇女の即位があった可能性は検討されるべきである。

なお、この場合、顕宗天皇即位が立太子年と結びつかないことになる。ここで、上記した磐之媛崩御の翌年の仁徳天皇即位を想起していただきたい。磐之媛を女王と見た場合、女王崩御の翌年が次の王朝開始年となる可能性もあろう。

注記

- 1) 事績が書かれていない年。伊藤論文[3]の語句を拝借した。
- 2) 伊藤説では、5世紀以前の無事績年と区別して、第2次無事績年という考え方がなされている。
- 3) 定点を、史実として明らかな年を取ってもよい。たとえば、継体17年を武寧王崩御の523年にとるといってもできよう。ただし、紀年復原の作業は時代を遡るよりも時代を下って行う方が容易である。

謝辞

本研究の一部は、2022年度中山隼雄科学技術文化財団設立30周年記念研究助成「中国象棋とチェスの起源に関する研究」による助成を受けて行われている。

参考文献

- [1] 高見友幸、日本書紀の紀年問題に関する考察、日本国史学第20号、2023。(投稿中)
- [2] 笠井倭人、〈論説〉上代紀年に関する新研究、史林、vol.36(4)、333-356、1953。
- [3] 伊藤雅文、『日本書紀』だけが教えるヤマト王権のはじまり、扶桑社新書、2019。
- [4] 高見友幸、大型将棋復刻研究の現状～平安京の復原／日本書紀の紀年復原／チェスの起源問題への発展～、第21回ゲーム学会合同研究会予稿集、2023。
- [5] 高見友幸、古代大王家の系譜に関する仮説、日本国史学第19号、83-104、2023。

原日本書紀 ver0.9

252	壬申	BC660 辛酉 神武元年	1	52歲		
253	癸酉	BC659 壬戌 神武2年	2			
254	甲戌	BC657 甲子 神武4年	3		安寧・懿德天皇 誕生	
255	乙亥	BC630 辛卯 神武31年	4			
256	丙子	BC619 壬寅 神武42年	5	綏靖天皇 皇太子 (14歲)		
257	丁丑	BC585 丙子 神武76年	6	127歲(137歲)	垂仁天皇 誕生	
258	戊寅	BC584 (空位)				
259	己卯	BC583 (空位)			孝安・孝靈天皇 誕生	
260	庚辰	BC582 (空位)				
261	辛巳				BC581 庚辰 綏靖元年	1 52歲
262	壬午				BC580 辛巳 綏靖2年	2
263	癸未				BC578 癸未 綏靖4年	3
264	甲申			安寧天皇 皇太子11歲	BC557 甲辰 綏靖25年	4
265	乙酉	宍神天皇 誕生			BC549 壬子 綏靖33年	5 84歲(45歲)
266	丙戌		BC548 癸丑 安寧元年	1		
267	丁亥		BC547 甲寅 安寧2年	2		
268	戊子		BC546 乙卯 安寧3年	3		
269	己丑		BC538 癸亥 安寧11年	4	懿德天皇 皇太子16歲	
270	庚寅	孝元天皇 誕生	BC511 庚寅 安寧38年	5	57歲(49歲)	
271	辛卯		BC510 辛卯 懿德元年	1		
272	壬辰		BC509 壬辰 懿德2年	2		
273	癸巳		BC489 壬子 懿德22年	3	孝昭天皇 皇太子18歲	
274	甲午		BC477 甲子 懿德34年	4	- (45歲)	
275	乙未		BC476 乙丑 (空位)			
276	丙申				BC475 丙寅 孝昭元年	1
277	丁酉				BC447 甲午 孝昭29年	2
278	戊戌			孝安天皇 皇太子20歲	BC408 癸酉 孝昭68年	3
279	己亥	開化天皇 誕生 譽津別命 誕生			BC393 戊子 孝昭83年	4 - (93歲)
280	庚子	BC392 己丑 孝安元年	1			
281	辛丑	BC391 庚寅 孝安2年	2			
282	壬寅	BC367 甲寅 孝安26年	3			
283	癸卯	BC355 丙寅 孝安38年	4			
284	甲辰	BC317 甲辰 孝安76年	5	孝靈天皇 皇太子26歲		
285	乙巳	BC291 庚午 孝安102年	6	- (123歲)		
286	丙午	BC290 辛未 孝靈元年	1			
287	丁未	BC289 壬申 孝靈2年	2			
288	戊申	BC255 丙午 孝靈36年	3	孝元天皇 皇太子19歲		
289	己酉	BC215 丙戌 孝靈76年	4	- (106歲)		
290	庚戌	垂仁天皇 誕生	BC214 丁亥 孝元元年	1		
291	辛亥		BC211 庚寅 孝元4年	2		
292	壬子		BC209 壬辰 孝元6年	3		
293	癸丑		BC208 癸巳 孝元7年	4		
294	甲寅		BC193 戊申 孝元22年	5	開化天皇 皇太子16歲	
295	乙卯		BC158 癸未 孝元57年	6	- (57歲)	
296	丙辰				BC157 甲申 開化元年	1
297	丁巳				BC153 戊子 開化5年	2
298	戊午				BC152 己丑 開化6年	3
299	己未			崇神天皇 皇太子19歲	BC130 辛亥 開化28年	4
300	庚申				BC98 癸未 開化60年	5 115歲(63歲)
301	辛酉	BC97 甲申 崇神元年	1	53歲(101歲)	BC29 壬辰 垂仁元年	1 成務天皇 誕生
302	壬戌	BC95 丙戌 崇神3年	2		BC28 癸巳 垂仁2年	2
303	癸亥	BC94 丁亥 崇神4年	3		BC27 甲午 垂仁3年	3 天日槍 現る 宍神天皇 誕生

304	甲子	BC93 戊子 崇神5年	4		BC26 乙未 垂仁4年	4	
305	乙丑	BC92 己丑 崇神6年	5		BC25 丙申 垂仁5年	5	
306	丙寅	BC91 庚寅 崇神7年	6		BC23 戊戌 垂仁7年	6	
307	丁卯	BC90 辛卯 崇神8年	7		BC15 丙午 垂仁15年	7	皇后 日葉酢媛命
308	戊辰	BC89 壬辰 崇神9年	8		BC07 甲寅 垂仁23年	8	蒼津別命 30歳
309	己巳	BC88 癸巳 崇神10年	9		BC05 丙辰 垂仁25年	9	
310	庚午	BC87 甲午 崇神11年	10		BC04 丁巳 垂仁26年	10	
311	辛未	BC86 乙未 崇神12年	11	天下太平	BC03 戊午 垂仁27年	11	
312	壬申	BC81 庚子 崇神17年	12		BC02 己未 垂仁28年	12	
313	癸酉	BC50 辛未 崇神48年	13	垂仁天皇 皇太子24歳	1 辛酉 垂仁30年	13	景行天皇 皇太子
314	甲戌	BC38 癸未 崇神60年	14		3 癸亥 垂仁32年	14	日葉酢媛命 薨去
315	乙亥	BC36 乙酉 崇神62年	15			5 乙丑 垂仁34年	15
316	丙子	BC33 戊子 崇神65年	16			6 丙寅 垂仁35年	16 天下太平
317	丁丑	BC30 辛卯 崇神68年	17	120歳(168歳)		8 戊辰 垂仁37年	17
318	戊寅			景行天皇 皇太子21歳		10 庚午 垂仁39年	18
319	己卯	71 辛未 景行元年	1			58 戊午 垂仁87年	19
320	庚辰	72 壬申 景行2年	2	皇后 播磨稻日大郎姫		59 己未 垂仁88年	20
321	辛巳	73 癸酉 景行3年	3			61 辛酉 垂仁90年	21
322	壬午	74 甲戌 景行4年	4	纏向		70 庚午 垂仁99年	22 140歳(153歳)
323	癸未	82 壬午 景行12年	5	八八	仲哀天皇 誕生		(八竿八かげ)
324	甲申	83 癸未 景行13年	6				
325	乙酉	87 丁亥 景行17年	7				
326	丙戌	88 戊子 景行18年	8				
327	丁亥	89 己丑 景行19年	9				
328	戊子	90 庚寅 景行20年	10				
329	己丑	95 乙未 景行25年	11				
330	庚寅	97 丁酉 景行27年	12				
331	辛卯	98 戊戌 景行28年	13				
332	壬辰	110 庚戌 景行40年	14	熊襲平定			
333	癸巳	116 116 景行46年	15	*成務天皇 皇太子 24歳			
334	甲午	121 辛酉 景行51年	16	成務天皇 皇太子			
335	乙未	122 壬戌 景行52年	17	播磨稻日大郎姫 薨去			
336	丙申	123 癸亥 景行53年	18				
337	丁酉	124 甲子 景行54年	19				
338	戊戌	125 乙丑 景行55年	20				
339	己亥	126 丙寅 景行56年	21				
340	庚子	127 丁卯 景行57年	22				
341	辛丑	129 己巳 景行58年	23				
342	壬寅	130 庚午 景行60年	24	106歳 (137歳)			
343	癸卯			仁徳天皇 誕生			
344	甲辰						
345	乙巳						
346	丙午						
347	丁未						
348	戊申					131 辛未 成務元年	1 48歳
349	己酉					132 壬申 成務2年	2
350	庚戌					133 癸酉 成務3年	3
351	辛亥					134 甲戌 成務4年	4
352	壬子					135 乙亥 成務5年	5 天下太平
353	癸丑			仲哀天皇 皇太子31歳		178 戊午 成務48年	6
354	甲寅					190 庚午 成務60年	7 107歳(95歳)
355	乙卯					191 辛未 (空位)	
356	丙辰			応神天皇 誕生		201 辛巳 神功元年	1
357	丁巳					202 壬午 神功2年	2

358	戊午			203	癸未	神功3年	3	応神天皇 皇太子3歳
359	己未	192	壬申 仲哀元年	1	205	乙酉 神功5年	4	
360	庚申	193	癸酉 仲哀2年	2	213	癸巳 神功13年	5	
361	辛酉	199	己卯 仲哀8年	3	239	己未 神功39年	6	魏志：景初三年239年云々 太歳己未！
362	壬戌	200	庚辰 仲哀9年	4	240	庚申 神功40年	7	魏志：正始元年240年云々
363	癸亥	履中天皇 誕生			243	癸亥 神功43年	8	魏志：正始四年243年云々
364	甲子			246	丙寅 神功46年	9		
365	乙丑			247	丁卯 神功47年	10		
366	丙寅			249	己巳 神功49年	11		
367	丁卯			250	庚午 神功50年	12		
368	戊辰			251	辛未 神功51年	13		
369	己巳			252	壬申 神功52年	14	七支刀献上	
370	庚午			266	丙戌 神功66年	20	泰初二年266年 倭の女王 遣使	
371	辛未			269	己丑 神功69年	21	100歳(100歳)	
372	壬申	270	庚寅 応神元年	1	70歳			
373	癸酉	271	辛卯 応神2年	2				
374	甲戌	272	壬辰 応神3年	3				
375	乙亥	274	甲午 応神5年	4				
376	丙子	275	乙未 応神6年	5				
377	丁丑	276	丙申 応神7年	6				
378	戊寅	277	丁酉 応神8年	7				
379	己卯	278	戊戌 応神9年	8				
380	庚辰	280	庚子 応神11年	9				
381	辛巳	282	壬寅 応神13年	10				
382	壬午	283	癸卯 応神14年	11				
383	癸未	284	甲辰 応神15年	12				
384	甲申	285	乙巳 応神16年	13				
385	乙酉	288	戊申 応神19年	14				
386	丙戌	289	己酉 応神20年	15				
387	丁亥	291	辛亥 応神22年	16				
388	戊子	294	甲寅 応神25年	17				
389	己丑	297	丁巳 応神28年	18				
390	庚寅	300	庚申 応神31年	19				
391	辛卯	306	丙寅 応神37年	20				
392	壬辰	308	戊辰 応神39年	21				
393	癸巳	309	己巳 応神40年	22	菟道稚郎子 皇太子			
394	甲午	310	庚午 応神41年	23	110歳(130歳)	允恭天皇 誕生		
395	乙未	311	辛未 (空位)					
396	丙申	312	壬申 (空位)					
397	丁酉			313	癸酉 仁徳元年	1		
398	戊戌			314	甲戌 仁徳2年	2	皇后 磐之媛	
399	己亥			316	丙子 仁徳4年	3		
400	庚子			319	己卯 仁徳7年	4		
401	辛丑			322	壬午 仁徳10年	5		
402	壬寅			323	癸未 仁徳11年	6		
403	癸卯			324	甲申 仁徳12年	7		
404	甲辰			325	乙酉 仁徳13年	8		
405	乙巳			326	丙戌 仁徳14年	9		
406	丙午			328	戊子 仁徳16年	10		
407	丁未			329	己丑 仁徳17年	11		
408	戊申			334	甲午 仁徳22年	12		
409	己酉			342	壬寅 仁徳30年	13		
410	庚戌			343	癸卯 仁徳31年	14	履中天皇 皇太子15歳	
411	辛亥			347	甲辰 仁徳35年	15	磐之媛 薨去	

菟道稚郎子？

412	壬子	349	己酉	仁德37年	16	
413	癸丑	350	庚戌	仁德38年	17	皇后 八田皇女
414	甲寅	352	壬子	仁德40年	18	
415	乙卯	353	癸丑	仁德41年	19	
416	丙辰	355	乙卯	仁德43年	20	
417	丁巳	362	壬戌	仁德50年	21	
418	戊午	365	乙丑	仁德53年	22	
419	己未	367	丁卯	仁德55年	23	
420	庚申	370	庚午	仁德58年	24	
421	辛酉	372	壬申	仁德60年	25	
422	壬戌	374	甲戌	仁德62年	26	
423	癸亥	377	丁丑	仁德65年	27	
424	甲子	379	己卯	仁德67年	28	天下太平
425	乙丑	399	己亥	仁德87年	29	- (83歳)
426	丙寅					
427	丁卯			400 庚子 履中元年	1	
428	戊辰	雄略天皇 誕生		401 辛丑 履中2年	2	反正天皇 皇太子
429	己巳			402 壬寅 履中3年	3	
430	庚午	412 壬子 允恭元年	1	403 癸卯 履中4年	4	
431	辛未	413 癸丑 允恭2年	2	404 甲辰 履中5年	5	皇妃 薨去
432	壬申	414 甲寅 允恭3年	3	405 乙巳 履中6年	6	70歳 (64歳)
433	癸酉	415 乙卯 允恭4年	4			406 丙午 反正元年 1 天下太平
434	甲戌	416 丙辰 允恭5年	5			407
435	乙亥	417				408
436	丙子	418 戊午 允恭7年	6			409
437	丁丑	419 己未 允恭8年	7			410 庚戌 反正5年 2 (60歳)
438	戊寅	420 庚申 允恭9年	8			411 辛亥 (空位)
439	己卯	421 辛酉 允恭10年	9			
440	庚辰	422 壬戌 允恭11年	10			
441	辛巳	423				
442	壬午	424				
443	癸未	425 乙丑 允恭14年	11			
444	甲申	426				
445	乙酉	427				
446	丙戌	428				
447	丁亥	429				
448	戊子	430				
449	己丑	431				
450	庚寅	432				
451	辛卯	433				
452	壬辰	434 甲戌 允恭23年	12	木梨輕皇子 皇太子		
453	癸巳	435 乙亥 允恭24年	13			
454	甲午	436		木		
455	乙未	437		梨		
456	丙申	438		輕		
457	丁酉	439		皇		
458	戊戌	440		子		
459	己亥	441		?		
460	庚子	442				
461	辛丑	443				
462	壬寅	444				
463	癸卯	445				
464	甲辰	446				
465	乙巳	447				

